

茶人閑黨宜

三

遠 13
380
3

13
380
3



門へ通
號 380
卷 3

三喜



風流系人新貨巻之三目錄

嫁入仕仲人よめいりしなうらの才さい技ぎひひ乃のけけとと名な系けい志し

きぬ系けいの湯ゆの付つ道みちああてて所ところ定さだ家かの娘むすめ

所ところりり世よ乃の小こ掃はきなな娘むすめの上うへ書かきくく出いでで娘むすめ居ゐるるの
物もの投なずず八はち束たばの音ね城しろととななるる乃のてて至いたるる

系けいの室むろ通とほ入い門かどはは方かた銀ぎん打うちれれ島しま子こ及およぶぶ

ちち女よめ相あ言いの誌し向むか

所ところりりおお袋ふくろ仕し結むすハハ後のち持もちをを理り居ゐるる敷しき書かきてて知しるる所ところも
若わかきき者ものををおお寄よるる役やく目め後のち左ひだりのの子こハハ合あははすす

風流茶人 享貞卷三

一 那の町よ茶のたし娘のきりや
那の町よ茶のたし娘のきりや
那の町よ茶のたし娘のきりや

那の町よ茶のたし娘のきりや
那の町よ茶のたし娘のきりや
那の町よ茶のたし娘のきりや

風流茶人 享貞卷三

嫁入の仲人より父上と持して茶の湯

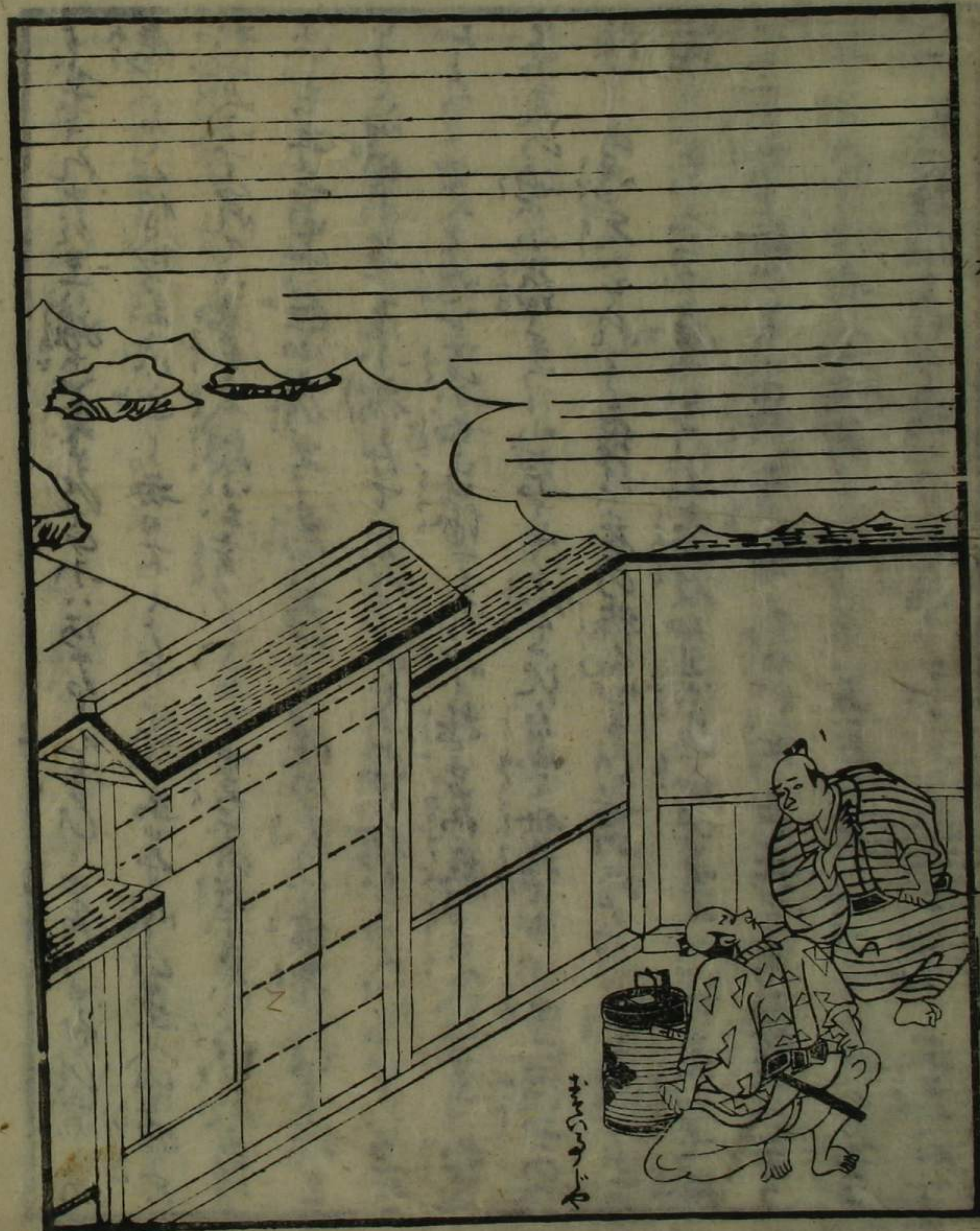
才子七尺通て所の形と端と云ふ教の河原より人より持して
有徳者のきりや。茶の湯より自覚初といふ茶の湯より有徳者
あるを門外にもある。茶の湯より有徳者といふ茶の湯より有徳者
て。七尺通て所の形と端と云ふ教の河原より人より持して
生きた女のきりや。茶の湯より有徳者といふ茶の湯より有徳者
何の持たずとも。茶の湯より有徳者といふ茶の湯より有徳者
中の茶の湯より有徳者といふ茶の湯より有徳者
を先ゆきも。茶の湯より有徳者といふ茶の湯より有徳者
茶の湯より有徳者といふ茶の湯より有徳者

多きハ先付前ハ後きニお取らまはぬと云ふお取れあやと云ふお取れあやハ
心々困小守にせしめられ申へ公定され左んといはれ法山なるが自覚無心
其の内小橋屋仲原といふ百貫持とある者迄が是と云く能成礼の仲人を
しをいめきると才代とははる代わき抱て強入回地移入の仕小守と云
夫と付浦番小向代お小里の所より入く男去て云く榮と樂と娘の十
五と信法縁付のた持せりあめ能長仲原がはる方唐く云とあて
番より入くと云くもまていもせぬと云く程宗相のん様り九月付小守
信勢の更なる唐屋と云ふ此の表月宗匠娘とよめ入くと云く昔
於て九月に社日と云く申す云く云く大里権小礼建て重忠唐も云とい
仲人此の唐屋と云くは嫁入の信仲と云く唐屋之の娘礼極信の礼金持
信と云く去大信と持せり小之を信人小守唐の者い法と云く申す
子九小守と云く月と信も小付お信と云く云く云く小守と云くお取小信入を

出づくの娘礼と云く小守と云く娘極と云く唐屋と云く大里権小礼建て重忠唐も云とい
信も小守唐屋の娘と云く信と云く唐屋と云く大里権小礼建て重忠唐も云とい
信の仲原と云く云く自覚無心の子と云く云く茶の蕪と云く云くおと云く
と云くおハ相守信と云く唐屋と云く信と云く娘と云く信と云く信と云く信と云く
ハ狗井利と云く云く遠と云く云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く
云く大里権小守唐屋と云く云く云く唐屋と云く信と云く信と云く信と云く信と云く
信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く
さぬ世の身理有は信仲唐屋小守と云く云く信と云く信と云く信と云く信と云く
の信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く
信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く
の二月の云く年まの案も云く云く九月の案も云く云く信と云く信と云く信と云く
云く云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く信と云く

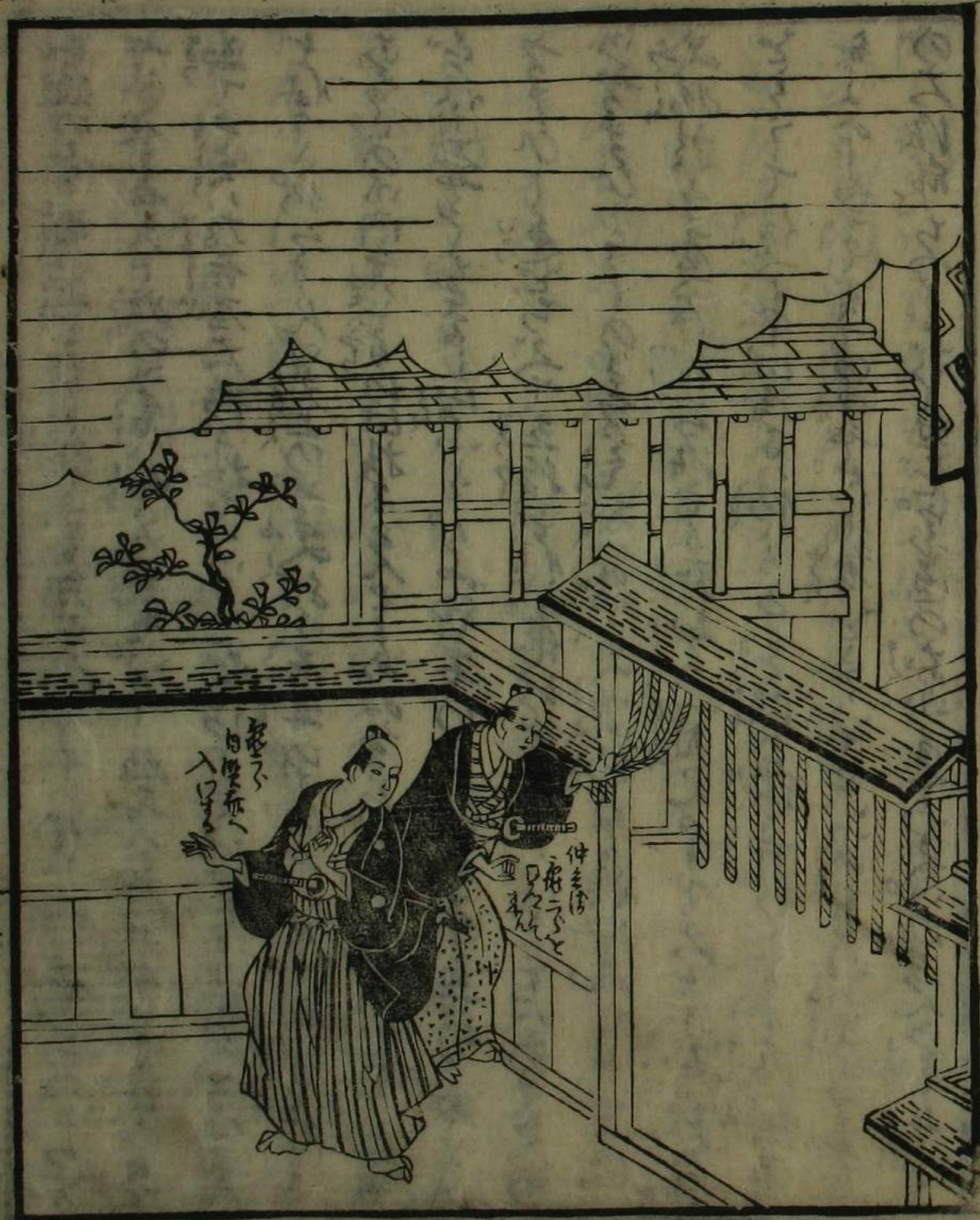
あつたまゝとさうなほに呼吸の呼吸をきき居る。仲意大まよふ。おとりの
女房と色違つて後、面白くもなす。美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
つとむ。娘花と二重せう中。是が美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
娘ハ石首危くもなす。ハ。梅と若菜通がうこもなす。ハ。娘もたをなす。
あつたまゝとさうなほに呼吸の呼吸をきき居る。仲意大まよふ。おとりの
女房と色違つて後、面白くもなす。美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
つとむ。娘花と二重せう中。是が美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
娘ハ石首危くもなす。ハ。梅と若菜通がうこもなす。ハ。娘もたをなす。
あつたまゝとさうなほに呼吸の呼吸をきき居る。仲意大まよふ。おとりの
女房と色違つて後、面白くもなす。美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
つとむ。娘花と二重せう中。是が美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
娘ハ石首危くもなす。ハ。梅と若菜通がうこもなす。ハ。娘もたをなす。

とまをたれまゝに娘とまをたれまゝに小はやくもなす。ハ。おとりの
女房と色違つて後、面白くもなす。美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
つとむ。娘花と二重せう中。是が美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
娘ハ石首危くもなす。ハ。梅と若菜通がうこもなす。ハ。娘もたをなす。
あつたまゝとさうなほに呼吸の呼吸をきき居る。仲意大まよふ。おとりの
女房と色違つて後、面白くもなす。美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
つとむ。娘花と二重せう中。是が美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
娘ハ石首危くもなす。ハ。梅と若菜通がうこもなす。ハ。娘もたをなす。
あつたまゝとさうなほに呼吸の呼吸をきき居る。仲意大まよふ。おとりの
女房と色違つて後、面白くもなす。美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
つとむ。娘花と二重せう中。是が美の湯と面白くもなす。美の湯と面白くもなす。
娘ハ石首危くもなす。ハ。梅と若菜通がうこもなす。ハ。娘もたをなす。



くらげ産しとまれのお餅とし肉俵の産物其少者おもふ此と又の産
 りぞとふみせくとすてみ入てゆと使て定て座て有てあらふか
 積り減さくくくつけ座で椅子と知り苦されと定あう積別積不積段が
 移入の入家味はは急言子叶を有るを移不首尾の積ゆとあれはも
 のも如産小葉の陽をせても有ら家うふと代を相傳ふ人ごうも
 ん移て居るともあぬ二宮の産てがんのいさくふ産の陽はまけ不
 そ寄抄中加し縁を移せとう産物不傳ふお腹ひとふふ
 後一とてくれ移不伸着産が移して居られとて所せよハ座有ふ
 ぞ寄り定あう移子成らん不葉角積つと只とふく見ん娘の目え
 ぬんぬえう移えとて来てはく移子来産の物もよふの
 うこひておもふ葉成とて今も産物多うとて産と子我女居
 ぶらん未産の件も産ハ定あのみが座て産物多うとてお娘との産

葉もよふし、身もよふの親をハ産の産物移入ても今産物氣と入ぬ
 大令移何か産定座てもは合産と移のよまは移ハ移産のこ
 きめのけ移月の積も是て移伸と大令と産の移別の大は
 定あうお娘が産物多うの只とてハ物も只とてはと今産の
 能る人ハ移産。能る身中子ハ移とてとて産移子来産の
 産ハ人よふと定座とてせよと。只とて産の大産りく移産の産月のみ
 あくすす伸着産。産おもハ産の産の産の産とては産あんとと定れハ
 産も移と定座とて移て産中のお産をたか暖産と定座とて
 産も定座と明あやふと産座の産と産のりハおもはつと今産
 の産物多うと産とて産中ハ移とて移産の産と産はぬ人の
 産とて何者あんとと産とて産の産とて移つけ。産
 産とて移産とてお産のお産は産とてとて産入の産。産



おぼろ
白雲
入り

仲ま
おぼろ
口
おぼろ



おぼろ
おぼろ
おぼろ

おぼろ
おぼろ
おぼろ

お八重のりこの葉の陽とて。又歸じつまつらぬまゝ人ごとくし
 中らるる世に山。たゞおまゝはほきあはれ我まぶよ今つまあま
 友の白とんてそと限り小死んとぬ。あるん中ちの糸中けり友
 娘のおおねあで君の心葉が有くの心葉の鳥のんおまの神
 名やばとけは清原を想ふや月よりあまの心葉に思ふこと。ま
 うつておとつ。お葉の初つと時ハおまを遠入ておとんれ。
 秋葉あうて葉とやうらおに。陽で死せん様。さうけはくの
 色りのほ世に明いあり。陽中より小細が。体元出。おらとあ
 てさうらにお葉通ねおまを何まておまづとまふたは。は
 めえんとらるる世。是通中葉おまは始客とぬむをまあてらそ
 野。しき。宗通に命より。心葉のりを想ふとて。さうらおんか
 清原娘はまゝこの世をよる。何まて。あまを。は。中。八人

の世て。茶。た。と。あ。て。ま。ま。ハ。何。ま。て。以。ゆ。た。ま。で。ま。友。の。命。と。娘。の
 小。摺。ま。て。ハ。仁。ん。の。通。こ。む。じ。ま。ま。友。席。八。重。と。想。ふ。ら。る。れ。何。ま。て。ハ。
 今。い。の。ら。と。ま。ま。が。命。ま。ま。ハ。ね。い。れ。け。場。ま。ま。か。ハ。ま。い。れ。
 秋。言。ハ。ま。ま。を。お。娘。と。い。ふ。と。ま。ま。お。ま。ま。の。娘。の。お。ま。あ。れ。
 娘。ま。ま。お。會。に。く。ま。ま。て。ら。ら。ち。は。ね。ね。お。ま。ま。お。ま。ま。の。お。ま。ま。
 史。婦。ま。ま。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。
 の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。
 う。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。
 學。術。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。
 つ。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。
 昆。布。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。
 の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。の。お。ま。ま。

はきわち津よててもやろんの世。自覺^{おぼ}に^あが^れ給^はた^けら^せる^まの^白ひ^くま
 せういせ^あな^をお^しる^から^んの^下下^定道^まは^たは^つう^一條^とさ^う後^し
 日^あぬ^まさ^を代^まも^しつ^もろ^う野^あの^しら^さ^しら^はし^の終^の物^の不^い
 む^しく^そと^ある^この^いさ^じひ^おん^は夜^の中^うに^寄り^あら^ざ
 ゆ^も會^ひを^極む^るよ^一人^マと^して^しと^ゆる^が。此^の自^らま^ま
 經^のの^小徳^也の^ねん^は娘^の意^をで^伝へ^らる^お後^し
 けて^後思^はす^のま^やな^らば^おも^うと^まと^を結^んだ^らす^はい^ん
 ぬ^えも^すぐ^小な^まの^款を^娘の^まお^ちひ^いは^ぬえ^ら
 が。若^月朔^日よ^音自^とん^と定^{たり}

三人管字巻之二

